

コリント人への手紙第二 第1章 4節

「神はどのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。」

年が変わる数日前となった。あっと言う間である。この季節、大陸から寒波が押し寄せ、日本海側や近畿地方では瞬く間に厚く積雪があり、動けなくなった車両が道路に並ぶ。その光景も降り続く雪のなかぼんやりとしか見えない。あと少しでこの雪はおさまりそうだ。なんとかして、早く日常に戻ってほしい。関東平野南部はどうかといえ、低温ながらも澄み切った青空が広がる。雪かきする傍らさらに積もってゆく豪雪地帯で雪と闘う人々の生活とは全く異なる年末である。

青空の下、近くの川の土手を散歩する。時間がうまく合えばカモや白サギを見ることもある。今日はそのチャンスは無いようだ。年末なのに、青々と伸びる野草や早々と咲いている水仙が土手に育っている。そこだけに目を移すと春の気配が強く感じる。それでもまだ12月下旬のことだ、土手伝いに吹く風は頬に冷たい。そう思いながら風のほうに歩き進むと、冷風の背後からなにか春の気配がする微風が追いかけてくる。冷たい風を受けながら、春への期待を膨らます。土手伝いに伸びる野草や花のように。

2021年12月28日